

新庄中学校から

○自分にできるSDGsアクションを

3年前から3年生の総合的な学習で、「新庄未来学」に取り組んでいます。2030年、今の中学生が大人になった頃の世界が、今よりも住みやすい環境、生活しやすい社会の仕組み、多様性を認め合える新しい価値観の定着等が少しでも進んで、多くの人々がそれらを目指して行動している世の中になっていることを目指しています。その指標となるのがSDGsです。この言葉は、多くの人々が聞いたことがある、知ってる、というようになってきました。次は、自分事として行動できる人を増やすことが大切になってきています。昨年11月の文化発表会では、3年生が15班に分かれ、次に示したテーマで課題や自分たちができることを発表しました。

※ () SDGs項目番号

世界を平和に(1)

豊かな町を目指して(11)

未来の海を守るため(14)

飢餓をゼロに(2)

幸せに生きるために(10)

漁獲量(14)

すべての人に健康と福祉を(3)

食品ロスを減らそう(12)

平和と公正をすべての人に(16)

エネルギーを大切に(7)

経済格差(10)

ジェンダー平等を実現しよう(5)

生態系(15)

豊かな海を守るために(14)

豊かな自然を未来に(15)

小さな事でも多くの人々がそれを目指して行動すれば、世界は変わってきます。子どもから大人まで自分にできるSDGsアクションを意識した生活心がけたいものです。

第14回世界遺産学習全国サミットなべ 2023.12.00
-ポスターセッション-

新庄未来学

～SDGsの窓からみえる未来へ～

発表者 田辺市立新庄中学校
3年生 市野瀬輝 前川拓巳
大木琉心 鷹巣天蒼

この取組を、昨年12月9日(土)に世界遺産学習全国サミット本大会、ポスターセッションの部で発表しました。県外からの参加者もあり多くの方に発信する機会になりました。

○保健教育・健康教室

生徒の心身の健全な成長を願って、講師先生を招いて、学ぶ機会を作っています。2学期初めから、助産師による思春期講座、栄養教諭による食育指導、スクールカウンセラーによるSST授業を行いました。2学期後半から3学期にかけては次の教室を実施、計画しています。繰り返しの学習で、正しい知識を身につけ、将来にわたって、健康な心身を保つ行動に繋がることを願います。

●1年生喫煙防止教室

令和6年1月16日(火)

講師 初山昌平氏：初山歯科医院

●2年生飲酒喫煙防止教室

令和5年12月11日(月)

講師 山下宏美氏、岩本真明氏
(田辺青少年センター)



●3年生薬物乱用防止教室

令和5年12月13日(水)

講師 山下真経氏(薬剤師)



○2月の主な行事予定

- 1日(木) 通学指導
 - 7日(水) 参観日・育友会総会
 - 14日(水)～16日(金) 3年生三者面談
 - 21日(水) 県立高校一般出願
- ※予定が変わることもあります。

小学校の様子は、各校区で配布される

「藻の花」 新庄小学校発行
「新二小だより」 新庄第二小学校発行

を御覧ください。

未来へつながる
田辺市道

わんぱく保育所便り

寒い毎日ですが、子どもたちは毎日元気に過ごしています。冷たい風が吹く日でも、裏山に上ると風もなくぽかぽかで、上着いらすずです。子どもたちは斜面を駆け回って鬼ごっこをしたり、木の切り株をお皿に見立ててどんぐりの皮をむき砂をパラパラとかけてごちそう作りをしたりと、いろいろ工夫して楽しく遊んでいます。

1月6日(土)には、わんぱくマラソン大会を行いました。昨年末から練習を重ねて、もみじ組(1～2歳)以上の全クラス子どもたちが参加しました。アップダウンの激しい裏山のコースですが、日頃から培った力と練習の成果を十分に発揮し、お父さんお母さんの応援に応じて、みんな最後まで走り切ることができました。

18～19日には、ぼぶら組の子どもたちが1泊2日のお泊り保育で滋賀県のマキノ高原へ行ってきました。18日は、あいにくの雨で予定していた宝探しができませんでしたが、室内でトランプをしたり、宝物選びをしたりして楽しく過ごしました。翌日は雨も上がり、山を探索し、雪や水にも触れて自然を満喫してきました。一人の欠席もなく、みんなで最高の思い出作りができました。



わんぱく学童保育所通信

寒い毎日ですが、1月は時々春が来たかと思うほど暖かい日もあり、学童に帰ってくるなり半袖のTシャツ姿になっている子もいました。

書き初め会も終わり、各学年の勉強も終盤に差しかかりました。「もうすぐ〇年生」と進級を意識した言葉も聞かれるようになってきました。2月も子どもたちがしっかり勉強に取り組み、しっかり遊んで楽しく元気に過ごせるようにしていきたいと思っています。

新庄のここ知ってる?

今後30年以内に発生する確率が70～80%とされている南海トラフ地震。昭和南海地震(1946年12月21日発生)については、経験された方や、両親、祖父母等からお話を聞いた方も多いかと思いますが、それよりも更に規模が大きく、記録に残る日本最大級の地震とされているのが宝永地震(ほうえいじしん)です。

第7弾 ～宝永津波の碑～

宝永地震は、宝永4年10月4日未の上刻(1707年10月28日14時頃)に発生し、近畿、東海のみならず、関東から九州東部まで広範囲にわたって激しく揺れる大地震であったそうです。当然のことながら大津波も発生し、全国各地で甚大な被害の記録が残されています。

新庄町内にも、宝永津波に関する記念碑が3基(潮位碑2基、伝承碑1基)残されており、これは過去に新庄公民館が建立したものです。特に大湊神社の潮位碑からは名喜里、田鶴が一望できるのですが、それを見ると新庄町のほぼ全域が浸水したということが非常によく分かります。また、東光寺前の坂にも潮位碑があります。この坂はドの坂(堂の坂とも)と呼ばれているのですが、これは文里湾・名喜里からの波と跡之浦からの波が「どーん」とこの坂で打ち合ったところからきているとも言われています。

それぞれ想像以上に高い位置にあり、実際に現場まで行くことで、津波の恐ろしさを再認識させられます。分かりやすい位置にありますので、是非一度見に行っていたきたいと思っています。



大湊神社の潮位碑。境内とほとんど同じ高さまで津波が到達しています。境内からの景色を見るとその高さに驚きます。



東光寺前の坂(ドの坂)の潮位碑。水色の歩道橋の下に設置されており、少し見上げた位置にあります。